

科目名	病態生理学 Pathology	
授業形態	講義(e-ラーニング)と演習	
標準履修年次	1年次	
実施学期・曜時間等	春BC学期 火曜1・2時限	
実施場所	共同利用棟B 204	
単位数	2単位	
担当教員名	水野道代 Mizuno Michiyo 山下美智代 Yamashita Michiyo 阿部吉樹 Abe Yoshiki 他	
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)		
オフィスアワー等	随時(メールで予定を確認の上訪問すること)	
授業の到達目標 (学習成果)	1.代表的な器官別機能障害に関する病態生理について理解できる。 2.生体機能の病態を、人体の構造と生理を踏まえた上で、正常からの逸脱機序をエビデンスに基づいて説明できる。 3.複雑な病態を呈する臨床事例を題材にした、エビデンスに基づいた病態生理的変化の解釈、判断ができる。	
他の授業科目との関連		
履修条件	履修要件はないが、本科目は専門看護師教育課程用に構成されている(他の授業科目との関連は専門看護師用履修モデルに掲載されている)。がんプロのe-ラーニング受講のためのガイダンスを受け、履修・聴講登録をすることが必要	
授業概要	エビデンスに基づき、対象の病態生理学的変化を解釈、判断するために必要な知識と技術について学び、専門看護師として対象の治療及び療養過程を総体的に支援する上で必要な知識と技術を学習する。	
キーワード	病態生理学 Pathology, 病態 pathological condition, 生理学 physiology	
授業計画	呼吸機能と病態生理(松野洋輔) 循環機能と病態生理(佐藤明) 消化機能と病態生理(小田竜也、田村孝史) 自律神経機能と病態生理(朝比奈正人) 1 脳機能と病態生理(山本哲哉) 5 運動機能と病態生理(鎌田浩史) 1 水・電解質バランスの病態生理(斎藤知栄) 0 生殖機能と病態生理(宮崎淳、佐藤豊実) 感覚機能と病態生理(和田哲郎、福田慎一) 内分泌・代謝機能と病態生理(井口研子、小林和人) 造血機能と病態生理(関正則) 生体防御機能と病態生理(鈴木豪、坪井洋人)	各自で必要な単元を 10コマ以上聴講
	11 (7/9)(1時限)代表的な生体機能(呼吸、循環)の臨床病態とその関連図の作成・発表 I (水野・山下) 12 (7/9)(1時限)代表的な生体機能(呼吸、循環)の臨床病態と看護判断 I (討議)(水野・山下) 13 (7/9)(2時限)代表的な生体機能(消化、、水・電解質バランス)の臨床病態とその関連図の作成・発表 II (水野・山下) 14 (7/9)(2時限)代表的な生体機能(消化、水・電解質バランス)の臨床病態と看護判断 II (討議)(水野・山下) 15 (7/23)(1時限)代表的な生体機能(脳、自律神経、運動)の臨床病態とその関連図の作成・発表 III (阿部) 16 (7/23)(1時限)代表的な生体機能(脳、自律神経、運動)の臨床病態と看護判断 III (討議)(阿部) 17 (7/23)(2時限)代表的な生体機能(内分泌・代謝、造血、生体防御)の臨床病態とその関連図の作成・発表 IV (阿部) 18 (7/23)(2時限)代表的な生体機能(内分泌・代謝、造血、生体防御)の臨床病態と看護判断 IV (討議)(阿部) 19 (7/30)(1時限)複雑な病態を呈する患者の事例検討(事例の作成・発表)(水野・山下) 20 (7/30)(1時限)複雑な病態を呈する患者の事例検討(討議)(水野・山下)	※11～18回は、e-ラーニングでの学習と教科書に基づいて各生体機能について関連図を作成した上で、関連図を利用したグループ討議により病態生理の理解を深める。

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>講義(e-ラーニング)(50%)、演習(50%)</p> <p>e-ラーニングでは、看護に重要な点を適切にとらえ、必要な個所は十分に理解できるまで何度も繰り返し聴講する。疑問を感じている項目について、積極的に教科書を調べたりすることにより、理解を深める。関心領域に当たる診療科の症例検討会等に積極的に参加する。e-ラーニング聴講後に行われる討議のために、事前に関連図の作成、検討事例の作成を行い準備をする必要がある。</p>
成績評価方法	<p>C. 指定された講義のコマ数を100%聴講済みとしており、演習にすべて参加していれば、C以上を与える。</p> <p>B. 聴講した各講義コマのすべての小テストに答え、かつ、講義の内容を適切に理解し、エビデンスに基づいて病態生理学的変化を説明できることが演習中に(発表資料、関連図、発表、討議で)確認されればBと判定する。</p> <p>A. A判定以上を得るには、発表、討議において、各機能の病態を人体の構造と生理を踏まえた上で、正常からの逸脱機序をエビデンスに基づいて説明し、適切な臨床判断ができていることが各討議担当の教員により確認される必要がある。</p> <p>e-ラーニングで出題される小テストの結果は単位取得の要件となるが、最終の評点には含めない。各講義担当教員が、作成された関連図についての発表内容と事例検討の内容を前述の評価基準に基づいて評価し(11-14回:35点、13-18回:35点、19,20回:30点)、合計点をもって最終の評点とする。</p>
教材・参考文献・配布資料等	<p>(教科書)</p> <p>病態生理学: 患への理解を深める, 副島昭典 小池秀海, 東京医学社. 2013/04 発行. SBN: 9784885632228</p> <p>(参考書)</p> <p>カラー図解症状の基礎からわかる病態生理 第2版 シュテファン・シルビールナグル フロリアン・ラング メディカル・サイエンス・インターナショナル 2011/08 発行 ISBN: 9784895926881</p>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	1~10はe-ラーニングによる授業であるため、視聴に必要な手続きをとること。